

数字で わかる！ 温暖化防止 活動推進員

おんだんかぼうしかつどうすいしんいん

京都の

第6期京都府地球温暖化
防止活動推進員の数

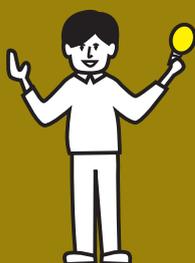
321人

推進員の活動件数
(平成25年度)

のべ1,844件

1,844件の各活動
の対象人数合計

のべ123,818人



たくさん の魅力的な 活動を 紹介します

地球温暖化（気候変動）の問題に対して、「これさえやれば解決する」というものはありません。地域によって、家庭によって、人によって、状況によって、それぞれに合わせた活動が求められています。

また、「エネルギーを使わないようにする」「我慢する」だけの活動は、結局長続きしません。無理なく、そして楽しく、続けることができる活動でないと、長期的にはうまくいかないことが多いです。

京都では、京都府地球温暖化防止活動推進員が（以下、推進員と表記）それぞれの知識や特技を活かして、地域や所属する団体に合ったかたちで、身近にできる温暖化防止活動を広めています。推進員仲間が話し合っってテーマを決め、協力しあいながら実践している地域もあります。

「ステキな低炭素型社会」という大きな目的に向かって、「楽しく」「魅力的な」「やりがいのある」活動がたくさん展開されています。この冊子では、そんなステキな推進員活動について紹介したいと思います。

も く じ

	3	推進員とは
低炭素型の 地域を 作る活動	4-5	食べ物で繋がる低炭素社会－食の地産地消－
	6-7	地域で再生可能エネルギー利用－太陽のめぐみ－
	8-9	地域で再生可能エネルギー利用－森のめぐみ－
	10	事業所の低炭素化
	11	地域を動かした活動
低炭素型の 暮らし方 を広める 活動	12-13	家族ぐるみで省エネ
	14	調査活動
	15	家庭の省エネアドバイス
	16	環境教育－子ども向け出前講座－
	17	環境教育－環境イベント－
	18-19	みどりのカーテン
	20	推進員は他にも色々な分野で活躍しています
	21	推進員が利用できるコンテンツ
	22	第6期推進員による「私の地球温暖化防止活動」
	23	推進員の方へ

321

人の京都府地球温暖化防止活動推進員がいます！

(第6期推進員として委嘱を受けた人数)

推進員とは

[京都府内の実践活動や普及啓発に、ボランティアとして関わっている方です。]

[地域で、所属団体で、職場で、家庭で…。さまざまな場面で、知識や経験や特技を活かして活躍する、温暖化防止活動の担い手です。]

[京都府知事からの委嘱（注）を受けて活動しています。任期は2年間です。
（注）「地球温暖化防止対策の推進に関する法律」第23条の規定により、都道府県知事が委嘱するものです。]

[平成15年から推進員の委嘱を開始。第1期は84名からスタートしました。]

[平成26年度現在活動しているのは第6期推進員で、任期は平成27年3月末までです。平成27年4月より、第7期推進員が活動を開始します。]

具体的な活動については、この冊子や以下のホームページを参考にしてください。

京都府ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/tikyu/suisinin.html>

京都府温暖化防止センターホームページ <http://www.kcfca.or.jp/jigyou/chiiki/suishinin.html>



平成25年度の一年間について、

推進員より報告いただいた活動回数は

のべ **1,844** 件、

各活動の対象人数合計は

のべ **123,818** 人 になります！

一日あたりに換算すると、毎日339人の方を対象に活動を行っています

(平成25年度の推進員活動報告書より)



この冊子では、報告書に記載されている活動以外にも各地で展開されている、推進員のステキな活動を紹介します。

(各事業の数字=成果は、推進員活動報告書以外のデータを使っている場合があります)

平成25年度推進員活動報告書に記載されていた代表的な活動内容について

- ①みどりのカーテン普及
- ②子ども向け出前講座
- ③大人向け出前講座
- ④イベントでの啓発
- ⑤家庭の省エネ相談・診断
- ⑥事業所の省エネ相談・診断
- ⑦廃油回収

**バイオディーゼル燃料を
使って農機具を動かす！
軽油代替でCO₂排出量削減！
エネルギーの地産地消も実現**

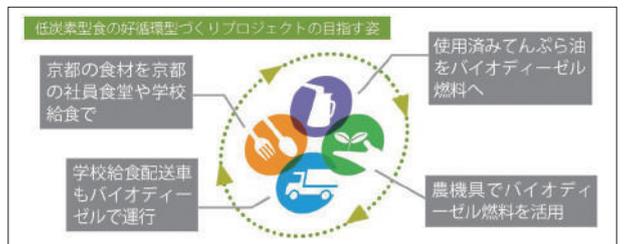
合計
10,130
ℓの燃料が使われました。

平成 23 ~ 25 年度における取組実績より。

26.1t-CO₂ 削減



(写真)
上 / B100 燃料を使って稲刈り
左 / B100 燃料を作っているプラント(丹後の自然を守る会)
下 / 低炭素食の好循環図



低炭素型食の好循環プロジェクト

農業に携わる推進員による「軽油の代わりにバイオディーゼル100%燃料（B100燃料）を農機具に使おう」という呼びかけがきっかけとなり、「低炭素型食の好循環プロジェクト」が生まれ、生産・運搬・消費・廃棄のそれぞれの段階でCO₂排出削減の取組を3年間行いました。

京丹後市・与謝野町・宮津市・舞鶴市・福知山市・綾部市・京丹波町・南丹市の生産現場で

196軒の農業関係者がB100燃料を利用し、CO₂削減に貢献しました。

また与謝野町では、「低炭素型食の好循環」が実現しました。与謝野町産コシヒカリ「京の豆っこ米」の生産農家有志が、田起し、代掻き、稲刈りなどの作業で使う農機具をB100燃料で動かしています。収穫した米は、地元与謝野町の学校給食や宿泊施設などで提供されます。学校給食センター

の配送車はB100燃料で走っており、給食センターから出された廃食油は、燃料の原料として回収され、与謝野町内にあるNPO法人丹後の自然を守る会がB100燃料に精製し、この燃料が農機具や配送車に使われています。

与謝野町産
コシヒカリ
「京の豆っこ米」



京都府温暖化防止センター
職員 西澤浩美より一言



低炭素型社会を実現するために、農作物を育てるためのエネルギーも地産地消しようと動き出した推進員。京都府北部は廃食油回収を組織的に実施しているところも多くあり、燃料に変える拠点もあります。その資源をうまく利用し、廃食油由来の燃料を農機具に使うことで地産地消で循環型の農業をすすめるという発想が素晴らしいです。この活動が地域に根付き、さらに広がることを願っています。

詳しくは

京都府温暖化防止センター 低炭素型食の好循環プロジェクト
<http://www.kcfca.or.jp/jigyuu/ecolife/post-4.html>

京都の食べ物を 京都で食べる

輸送エネルギー由来のCO₂
排出量削減！地域も元気に！

のべ
76,770

食の学校給食に
丹後産水産物が導入されました。

平成 23 ~ 25 年度における取組実績より。



舞鶴漁港を学校教諭が見学（食材勉強会）



社員食堂で地産地消メニューを提供
（エスパック株式会社福知山工場）

フード・マイレージ減で温暖化防止

日本のフード・マイレージは先進国の中でも大きく、私たちの食卓は海外食材に6割も依存しています。

地産地消を進めることで、運送エネルギーを減らすことができ、また地域産業が元気になります。そこで、京都府や当センター等が連携し、学校給食や社員食堂、レストランなどで地元産農林水産物を提供するプロジェクトを進めてきました。

「京都の魚を食べよう！」京都に魚のイメージは少ないですが、丹後では新鮮な水産物が獲れます。そこで、水産関係の推進員の協力を得て、漁港見学や食材勉強会を開催しました。その結果、学校給食では、京都府南部の市町村で丹後産水産物利用が増加し、併せて小学校の給食便りや出前講座で、地産地消による地球温暖化防止効果について保護者や児童に知ってもらう機会を増やしました。

社員食堂でも水産物利用が広がり、「舞鶴さかなフェア」を実施した企業もありました。



舞鶴さかなフェアちらし
（株式会社福知山製作所）

推進員
より一言
嶋田善文さん



京都には、新鮮な水産物が獲れる舞鶴があります。京都南部からでも車で2時間の距離です。わざわざ遠い外国産の魚を食べなくても、新鮮でおいしく、輸送エネルギーも少ない地元の魚を食べることができ、地球温暖化防止にもつながります。水産関係講座の講師を務める時には、地産地消や海の様子など、必ず環境の視点からのお話を入れるように日々務めています。

詳しくは

京都府温暖化防止センター 低炭素型食の好循環プロジェクト
<http://www.kcfca.or.jp/jigyou/ecolife/post-4.html>

太陽のめぐみを自宅に！ 個人住宅の 太陽光発電システム をひろめています

のべ

28

人の推進員が自宅の屋根に
太陽光発電システムを設置しています。

平成 26 年度 推進員を対象としたアンケート調査より。



ベランダに設置した
独立型太陽光発電
システム



推進員の自宅に設置された太陽光発電システム

地域で再生可能エネルギーの普及 その1 住宅などへの設置

自宅の屋根に太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギー導入を自ら実践する推進員。それだけでなく、中には、自宅に設置した「発電所長さん」同士の情報交換を後押しする団体（PV-Net 京都）を担っている推進員もいます。いくら太陽光発電が長寿命でメンテナンスが少なくて済むとは

いえ、トラブルの可能性はあります。「付けて終わりではなく、発電量のデータを見つめてほしい」と呼びかけています。

また、屋根に設置できなくても、ベランダ等に独立型の太陽光発電システムを置いてバッテリーに充電し、電気を使っている推進員もいます。そんな実体

験をもとに、地域の学習会などで「おひさまの恵み」を使う取り組みの情報を発信し、太陽光発電・太陽熱温水器の普及を後押ししています。推進員の話聞いて、ご近所の方が次々と太陽光発電を設置している例もあり、着実に「おひさまの恵み」を拡げています。

推進員 田原誠一郎
さんより一言



「自然エネルギー学校・京都」（主催・現）京エコロジーセンター、（第2回当時）気候ネットワーク）で、1枚のソーラーパネルを独立系で使用するシステムを教えてくださいました。マンションのベランダに設置し、電気を自動車のバッテリーに貯めてテレビにつないでいます。発電量はわが家の全使用電力の1%以下ですが、自宅での電気の収穫を楽しんでいます。

小学校に持ち込んで環境学習の教材にも使います。本物の太陽光パネルを使った実験なので、児童にも実感を持って学習してもらえます。

詳しくは

NPO 法人太陽光発電所ネットワーク 関西ブロック協議会 <http://pvnetkansai.jimdo.com/>
京都府温暖化防止センター 太陽光発電に関する情報 <http://www.kcfca.or.jp/jigyou/ecolife/pv.html>
冊子「自然エネルギーのある暮らし。」 <http://www.kcfca.or.jp/jigyou/ecolife/arukura.html>

太陽のめぐみを
子どもたちと実感！
保育園への
太陽光発電設置を支援！

のべ

13

人の推進員が、市民共同発電所づくりの活動に参加したことがあります。

出資や寄付をしたことのある推進員は22人。

平成26年度 推進員を対象としたアンケート調査より。



おひさま発電所「点灯式」の様子



園の屋根に設置されたおひさま発電所のパネル

地域で再生可能エネルギーの普及 その2 市民共同発電所づくり

「家庭で節電し、節約できた電気代くらいの寄付を集めて、保育園などに太陽光発電を！」。

そんな「市民目線」からの地道でステキな取り組みを14年間も続けている団体が認定NPO法人きょうとグリーンファンド。この取り組みに、スタッフとして、また、チラシを配って節電・

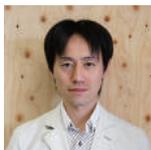
寄付を呼びかける裏方として、あるいは、一人の参加者（寄付者）として、何人もの推進員が関わっています。

単に太陽光発電を設置するだけではなく、それをきっかけに、環境問題について考え、取り組む人を増やしたい。そんな理念から、園では必ず保護者や職員

を対象とする学習会を実施。この学習会も、腹話術を取り入れるなど、楽しめる工夫がこらされています。

園では、お祭りのエコ化、雨水タンクを利用した節水、エコすごろくの作成など、様々な活動が広がっていきます。

京都府温暖化防止
センター職員
木原浩貴より一言



この取組は、自宅に設置できない人、園に通う子どもたちや保護者・保育士など、多くの人に再生可能エネルギーに関わる機会を提供しているという点が特徴的。あと数年すると、毎日発電量表示板を見ながら育った子どもたちが成人を迎え、社会の担い手になっていきます。発電所だけではなく、担い手を増やすことにもつながるステキな取組です。なお、おひさま発電所以外に、京都市内や宮津市内等で出資型等の市民協働発電所づくりが行われており、そちらでも推進員が活躍しています。

詳しくは

認定NPO法人 きょうとグリーンファンド <http://www.kyoto-gf.org/index.html>
一般社団法人 市民エネルギー京都 <http://kyoto-renergy.org/>

森林整備活動を支え、
地域通貨で地元の商店
も活性化する
「京丹後木の駅プロジェクト」

約

1,000

枚のモリ券(地域通貨)を
発行しました。

京丹後木の駅通信第6号より平成25年度実績。
金額にすると約100万円相当になります。



間伐材を出荷するトラック



木の駅に集積された間伐材

京丹後木の駅プロジェクト

木の駅プロジェクトをご存知ですか？これは、地域の間伐材などを固定価格で買い取る集積拠点(木の駅)を作り、地元の山主や森林ボランティアが気軽に間伐材などを現金化(地域通貨)できる仕組みです。また地域通貨を地元の商店で使うことで地域の経済活性化にもつながります。

京丹後市では平成24年11月から「京丹後木の駅プロジェクト」

が実施されています。平成25年度は160トンの間伐材・未利用材等が地元の山主の方などにより山から搬出され、約1000枚の地域通貨「モリ券」に交換されました(1モリ=1,000円相当)。モリ券は京丹後市内の90の商店等で使用することができます。

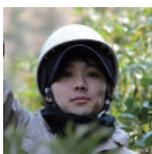
この取組には事務局として「NPO法人エコネット丹後」が関わっています。同NPO法人に所属している推進員が、モリ券を

使用できるお店の開拓やイベント開催時のスタッフとして活躍しています。



京丹後
木の駅通信
第6号

京都府温暖化防止センター
職員 瀧上佑樹より一言



木の駅プロジェクトは、一般市民や森林ボランティア団体が森林整備に係る新たな形として注目されています。京都府内ではこの他に京都市右京区京北地域でも同様の活動が行われていますが、今後府内各地でもっと広がることを期待しています。

詳しくは

京都府温暖化防止センター 京丹後木の駅プロジェクト <http://www.kcfa.or.jp/jigyuu/chiiki/jirei/tangokinoeki.html>
京丹後木の駅実行委員会 (京丹後市役所農林整備課内) (TEL: 0772-69-0430)

地元小学校とともに 里山保全を実践！

39

人の推進員が、森林整備・里山
保全等の活動を行っています。

平成 26 年度 推進員を対象としたアンケート調査より。



西山でドングリ植樹



図書室の薪ストーブ（長岡京市立神足小学校）

森林整備 × 間伐材利用 × 環境教育

歴史ある京都のまちのまわりには、昔からまちのエネルギーを供給してきた薪炭林がありました。今、あらためて注目されている森林・里山等を豊かにする活動に、多くの推進員が活躍しています。推進員はそれぞれ所属団体の活動として地元の里山に入り、定期的に間伐作業を行っています。間伐作業などで出てきた木質資源（カーボンフリー）を、椎茸の椀

木に利用、燃料利用しているところも。さらに、地元の小学校と連携して、里山学習の支援をしている事例もあります。

▼【西山での取組事例】

長岡京市立神足小学校では、図書室に薪ストーブを置いています。休み時間になると、ストーブ前で本を読む子どもたちの姿が。燃料の薪は、「里山再生市民フォーラム」などで活動する地域ボラン

ティア（推進員も含む）が、近くの「西山」から運んできたものです。

児童は西山の間伐材を使って工作もします。また、どんぐりの苗を育てて、西山に植樹するなど、西山を里山学習の場とし、その学習支援にもボランティアが関わります。

どんぐり工作
も楽しむ



推進員
より一言
加藤克巳さん

平成 22 年 3 月に西山森林整備推進協議会の里山整備実証実験の取組の一つとして、神足小学校にストーブが設置されました。当初はストーブ用の落ち葉拾い、柴拾いから始まって、今では 3 年生（約 90 名）が 11 月にドングリ（クヌギ、コナラ）の苗木を山に植え、同時に集めた実を 12 月に学校でポットにまきます。当番を決めて育て、次の 3 年生に引き継ぎます。植樹地にはシカ防護ネットを張っています。ストーブの利用からはじまって、苗木づくり、植樹まで発展し、ながつづきしているのは、子供たち、先生方、関係の皆さんの西山の恵みを受け続けるための熱意のたまものです。

詳しくは

京都府温暖化防止センター うおーみんぐ 36 号 5 ページ
<http://www.kcfca.or.jp/jigyuu/info/newsletter.html>

専門性を活かして、
事業所のエネルギー消費
の実情を「見える化」し、
省エネをご提案！

159

企業の省エネ診断を行いました。

平成 22 ~ 25 年度における
中小企業の省エネ診断事業の実績より。

1953.4t-CO₂ の削減効果



コンプレッサの状態を確認中



業務用大型乾燥機を調査中

- 中小企業の省エネ診断 -

省エネ大国の日本は「乾いた雑巾を絞る」と例えられますが本当でしょうか？実はまだまだ削減余地＝宝の山が眠っています。

3.11 以降の電力不足や電気料金値上げを受けて、企業・事業所等の省エネ意識も高まってきています。

そんな中、多くの推進員が、

企業での業務経験・得意分野・専門知識を活かして、省エネの具体的な方法をアドバイスすることで活躍しています。

今は電気料金が高い分、光熱費削減効果も大きくなります。事業所にとっては経営の面でも「省エネした分、売上が上がるのと同じ」というメリットにつながります。

中小企業の省エネ診断では、それぞれの事業所で電気使用状況を計測。何にどれぐらい実際にエネルギーを使っているのかを、データで把握して見える化します。その事業所にとって、特に効果がある省エネ対策を提案し、光熱費削減・CO₂ 排出削減を確実に進めるお手伝いをしています。

京都府温暖化防止センター
職員 三枝剛より一言



省エネを通して経費削減できる可能性は高く、推進員さんの持っている幅広い経験と知識を、存分に発揮して頂いています。何人もの推進員が KSVU（京都シニアベンチャークラブ）の診断員さんとして活躍、すぐに取り組める分かりやすい対策を提案して頂いています。

詳しくは

直接当センターまでお問い合わせ下さい。

省エネの参考情報：平成 25 年度「中小事業者等省エネ・節電診断事業」事例集（一社）京都産業エコ・エネルギー推進機構ホームページに掲載）<http://www.kyoto-eco.jp/support/2013/sindan/zireisyu/>

手作りLED街灯が 照らす、商店街と 子どもたちの未来

街灯での電力消費量を、

90

%削減!

長岡中央商店街の水銀灯（1基180W）から手作りLED街灯（1基20W弱）に交換した時の消費電力削減量。



自作LED取り付けの様子



LED照明製作の様子（長岡京市立神足小学校）

街灯LED化の取組 - 長岡京市 -

「このままでは、商店街の灯りを維持できない」。長岡中央商店街（通称：アゼリア通商店街）は、街灯の維持管理に頭を悩ませ、長寿命で高効率なLED街灯にすることを決断。当時、ちょうどよい市販の製品がなかったこともあり、専門家の助けを借りながら、地元の小学生らとLED街路灯を手作り。84基をすべて更

新し、電力消費量の9割削減、維持管理費の6割削減に成功しました。

この取り組みは、全国の地球温暖化防止活動のコンテスト「ストップ温暖化『一村一品』大作戦2010」で銀賞を獲得。注目を集め、2015年4月から使われる社会科の教科書（教育出版「小学社会3・4下」平成26年4月

4日検定済）にも取り上げられることになりました。

取り組みの中心となった商店街組合理事長は、「この取り組みは温暖化防止にもつながる」と推進員に就任。その後も、商店街で省エネの学習会を開催するなどの取り組みを、長岡京市役所とも連携しながら実施しています。

京都府温暖化防止
センター職員
木原浩貴より一言



「地域課題の解決法を探したら、それは省エネだった」、「啓発にとどまらず実際にCO₂削減につながる取り組みだった」、「小学生を含めた多くの地域住民が参加しており、意識向上・将来の担い手育成にもつながった」などの特徴を備えたとてもステキな取り組みで、府外からの視察も訪れるなど全国的に注目を集めました。また、この事例を知った他地域の推進員が、自らが住む自治会の街路灯をLED化するという波及効果もありました。京都が誇る推進員活動の一つだと思います。

詳しくは

京都府温暖化防止センター うおーみんぐ 41号5ページ

<http://www.kcfca.or.jp/jigyoinfo/newsletter.html>

【宮津市】地域を照らす省エネ照明 <http://www.kcfca.or.jp/jigyoinfo/chiiki/jirei/miyazusyomei.html>

**スタート時から参加
世帯数は 40 倍以上に！**
たくさんの家庭で取り組
まれるようになりました！

16,962
世帯が参加しました。

平成 26 年度の実績より。

推計 50t-CO₂ の削減効果



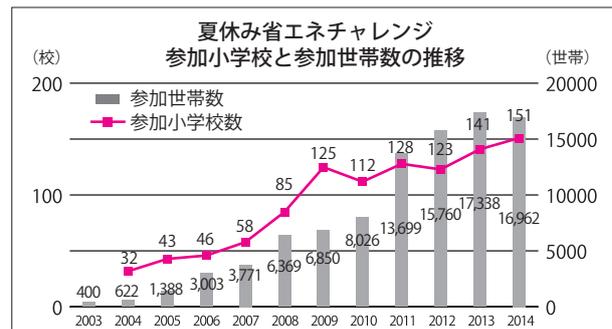
(写真)
左上 / 夏休み省エネチャレンジ冊子
右上 / エコチェックシート
下 / 夏休み省エネチャレンジに参加し、優秀な成績だった小学校を表彰。表彰式で記念撮影

夏休み省エネチャレンジ

児童とその家族が自宅で過ごす時間が長くなる夏休み期間中に、家族ぐるみで節電・地球温暖化対策に取り組んでもらうことを目指した事業です（京都府委託事業）。一週間取り組んだ項目を、子どもが自分でチェックします。

一定の基準を満たした参加世帯には「エコ親子」の認定証が知事より発行されます。個人参加だけでなく、学校単位で取り組むこともでき、優秀校には賞状と、企業の協賛による環境学習教材が贈られます。

この事業を開始した平成 15 年には、400 世帯の参加でしたが、推進員が地元の小学校に紹介・取組を勧めた結果、参加世帯・参加小学校ともに増えてきました。



京都府温暖化防止
センター職員
河田理恵子より一言



参加 16,962 世帯というのは家族の人数を入れると約 5 万人となります。エコチェックシートの感想欄には、期間が終わっても省エネを続けたいという声が多く見られ、推進員の働きかけが、家庭での省エネの普及に大きく貢献していることがわかります。

詳しくは

京都府 夏休み省エネチャレンジ <http://www.pref.kyoto.jp/tikyuu/1216791952659.html>

京都府温暖化防止センター 夏休み省エネチャレンジ <http://www.kcfa.or.jp/jigyuu/kyouiku/natsuyasumi.html>

**推進員の呼びかけで
参加小学校も
増えています！**

府内 413 小学校中

151
小学校が参加しました。

平成 26 年度の実績より。

類似の事業を独自で行っている京都市を
除くと、約 6 割の小学校が参加。



授業風景（木津川市立相楽台小学校）



機関紙で参加の呼びかけ

夏休み省エネチャレンジ

夏休み省エネチャレンジを、京都府内の多くの学校で取組んでもらうために、府内各地で推進員はそれぞれ参加を呼びかけたり、出前講座を実施したりしています。

地元の学校に足を運ぶ推進員もいれば、所属団体の活動の一つとして参加呼びかけを行うところもあります。たとえば、推進員が所属する綾部市環境市民会議では、機関紙「エコねっとあやべ」で、綾部市内小学校に参加を呼びかけ、全小学校が取組んでいます。

夏休み省エネチャレンジ取組後、2 学期後半に夏休み省エネチャレンジの取組結果を聞く機会を作っているのは、木津川市立相楽台小学校。その授業にも推進員が関わっています。4 年生が総合的な学習の時間に、家庭の電気の使い方について勉強するとともに、夏休み省エネチャレンジの学年全体実践結果と効果について学びます。そして、授業の最後には冬にできる省エネ活動について考え、実践できる項目を発表し合います。

推進員 藤田有子さん
より一言



自分達の頑張りでも CO₂ がゴミ袋 1518 個削減できたと聞いて大きな歓声をあげて喜ぶ子どもたちは素直でとてもかわいかったです。冬にできる取組として「家族みんなで同じ部屋にいる」「1 枚多く着る」など対策をいっぱい提案してくれた時はとても頼もしく感じました。子どもたちと一緒に地球にやさしく暮らしたいと思って日々活動しています。

詳しくは

京都府温暖化防止センター うおーみんぐ 37 号 5 ページ
<http://www.kcfca.or.jp/jigyoinfo/newsletter.html>
 京都府温暖化防止センターのブログでもいくつか紹介しています <http://kyoto-ondanka.seesaa.net/>

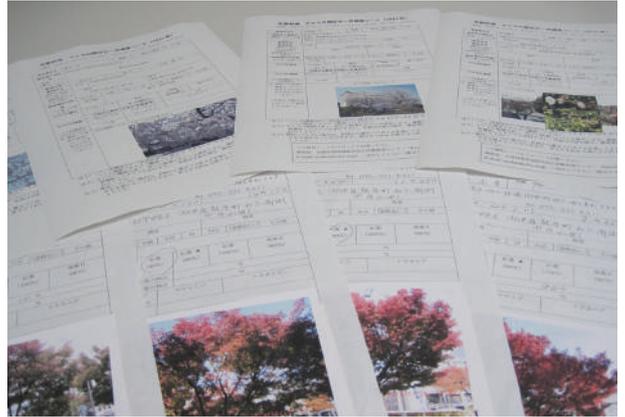
生きものを見つめる
= 気候変動に気づく
サクラ開花日・カエデ紅葉
日調査を市民参加で！

149
箇所の調査を行いました。

平成 25 年度のサクラ・カエデ調査結果より。



推進員が調査している
サクラやカエデ



報告書はサクラ・カエデをあわせると 1 年で 520 枚にもものぼる

サクラ開花日・カエデ紅葉日の調査

2008 年から、桜の開花とカエデの紅葉の時期について、市民参加で継続的に調査しています。京都府内各所の推進員が、身近な場所にて調査を行い、データを提供しています。集められたデータは、龍谷大学の増田啓子研究室（環境気候学）にて分析されています。

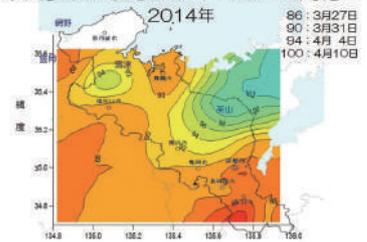
※ 2014 年 11 月、テレビ朝日系「報道ステーション」にて取組内容が紹介されました！

近年気象台の生物季節観測が縮小されるなか、京都府内の推進員・高校生・大学生が中心となり継続的に調査を行っています。寄せられた報告は、京都府域全体の気候変化を捉えるために大変意義のあるデータです。また、サクラ開花日調査については、学校等の年度末に左右されない推進員が継続的な観測に貢献しています。身近な場所にて調査を行うことにより、地球

温暖化による生物の影響を身近な現象として実感することができます。

分析結果

市民参加によるソメイヨシノの開花日



京都地方気象台調査官
新井真さんより一言



推進員の皆様によって、サクラ、カエデの観測が行なわれていることは、気候変動による身近な自然の変化を監視するうえで大変重要なことと考えます。そして、地球温暖化の一つの指標として、貴重な資料を得ていると思います。この、長年に亘って積重ねたデータは、必ず今後の取組みに生かされます。ぜひ、この観測が続くようお願いしたいと思います。

詳しくは

京都府温暖化防止センター サクラ開花&カエデ紅葉調査
<http://www.kcfca.or.jp/jigyuu/info/sakura-kaede.html>

家庭の状況に応じて
具体的な省エネ方法
をアドバイス！

912
件の相談がありました。

平成 25 年度に京都府温暖化防止センターの主催・共催で 16 回開催。これ以外にも、推進員等が参加するグループが開催している相談所が多数あります。

| 推計 185t-CO₂ の削減効果 |



商業施設での実施の様子（イオン洛南店）



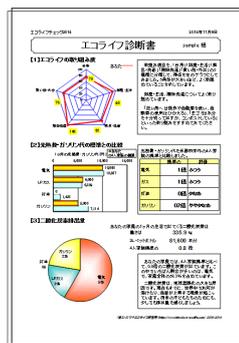
省エネグッズを紹介（鳥羽水環境保全センター）

省エネ・節電相談所

推進員 64 人がアドバイザーとして活躍しています！

アドバイザーは、来場者が回答したアンケートをその場で診断ソフトに入力し、「省エネ診断シート」を印刷します。それをもとに、来場者の家庭の状況に即した省エネ方法についてアドバイスを行います。

省エネ診断シート



省エネ・節電相談所は、各地のイベント会場や公共施設、商業施設などで実施しています。（平成 26 年度は 4 月に鳥羽水環境保全センター（藤棚一般公開）、6 月イオン洛南店、9 月 SKY ふれあいフェスティバル等で開催しました。）

京都府温暖化防止センター
職員 浅井薫より一言



相談者の家庭状況に応じて具体的なアドバイスができるところが魅力です。多くの推進員が、来場者と同じ生活者という立場からアドバイスを行って、家庭での CO₂ 排出削減に貢献しています。LED 電球と白熱球の消費電力を比較したり、断熱シートなどの省エネグッズを実際に見たりすることができ、好評です。

詳しくは

京都府 省エネ・節電相談所 <http://www.pref.kyoto.jp/tikyuu/1343357789501.html>

京都府温暖化防止センター 家庭の省エネ相談所 <http://www.kcfca.or.jp/jigyuu/ecolife/soudansho.html>

**出前講座で
低炭素なくらし方を
一緒に考え、行動に！**

のべ
416
回の出前授業を行いました。

平成 25 年度 推進員の活動報告より。
学校の授業日数で換算すると、
毎日のべ 2 人の推進員が出前講師として活躍。



赤と緑のカードを使って旗揚げクイズ (亀岡市立亀岡小学校)



食材のカードを使ってフード・マイレージを考える
(長岡京市立長岡第四小学校)

子ども向け出前講座の実施

多くの推進員が、低炭素なくらしにつながる具体的な実践活動を伝えるため、学校の授業や地域の学習会に出前講師として出かけています。学習会の内容は、家庭でできる省エネ、みどりのカーテン、フード・マイレージなど、どれも身近ですぐにでも始められる活動ばかり。参加型や体験型学習も取り入れ、楽しみながら温暖化防止について学ぶ教室やプログラムが京都府

内で展開されています。

例えば、亀岡市・南丹市・京丹波町の地域(中丹地区)では、毎年小学校 15 校ほど小学 5・6 年生を対象に「未来っ子地球温暖化防止教室」が開かれています。京都府南丹保健所と連携しながら 3 市町の推進員が協力して講師を務めます。この出前教室は平成 18 年度から始まり、これまでに授業実施校数はのべ 92 校にも。

他にも、宇治市・長岡京市・木津川市ではフード・マイレージについての教室が実施されたり、城陽市では太陽光発電のミストシャワー体験教室が保育園で実施されたり、各地で推進員が活動中です！



ミスト
シャワー
体験

京
都
府
温
暖
化
防
止
セ
ン
タ
ー
職
員
西
澤
浩
美
よ
り
一
言



地域のことをよく知る推進員ならではの地域情報が織り込まれる内容のものもあり、聞いている児童たちも自分ごととして真剣に話を聞いてくれます。

詳しくは

京都府温暖化防止センター 親子温暖化教室 <http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/oyako.html>
うおーみんぐ 42 号 4・5 ページ、37 号 4・5 ページ
<http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/info/newsletter.html>

地域のイベントに
自然エネルギーや省エネ
を楽しく学べるコーナー
を設置して啓発！

のべ
[385]
回の活動を行いました。

平成 25 年度 推進員の活動報告より。
換算すると、毎週のべ 7～8 人の
推進員がイベントを実施。



(写真)
上 / オリジナル環境クイズを実施 (木津川市環境まつりにて)
下 / 自転車発電体験コーナーの様子 (綾部市コスモス祭)

環境イベント

各地域で毎年行われているイベントでも、多くの推進員が活躍しています。

イベント会場内で、温暖化防止をアピールするコーナーを設営したり、ゲームや工作を通じて自然エネルギーや省エネなどについて体験できるイベントを行っています。

多くの推進員が、市町村が主催するイベントや小学校での行事、町内の地蔵盆まで、色々な

場所で、おとなから子どもまで幅広い対象者に向けてイベントを行い、活躍しています。

例えば、綾部市では、綾部市環境市民会議が毎年「綾部市コスモス祭」を開催。そこに参加する多くの推進員がおそろいのジャンパーを着込み、ソーラークッカー、自転車発電、クイズ、エコバックづくりなど、工夫を凝らした啓発活動を実施しています。



コスモス祭では、
きれいなコスモスがたくさん
咲いています

京都府温暖化防止センター
職員 川手光春より一言



各地のイベントで、「お、〇〇さん、ちょっと寄ってって」と声をかけ、ブースに呼び込む推進員の姿がみられます。地元だからこそ、その地域に合わせた内容となるよう工夫されています。「こんなこと知っとる?」「便利やし、省エネやし、光熱費も減るよ～」など、同じ生活者としての話に共感が広がっています。

詳しくは

京都府温暖化防止センターのブログでもいくつか紹介しています
<http://kyoto-ondanka.seesaa.net/>

「工夫の省エネ」
「みどりのカーテン」の
環が広がっています！

公共施設への設置支援、
栽培講習会などで活躍！

のべ
190
回の活動を行いました。

平成 25 年度 推進員の活動報告より。



八幡市立南山小学校の緑のカーテン



市民講座で講師をつとめる推進員（八幡市）

みどりのカーテン - 八幡市環境市民ネットの事例 -

推進員と京都府温暖化防止センターでは、平成 18 年度からみどりのカーテンの普及拡大に取り組んできました。現在、京都府内ほぼ全域で、様々な形で推進員によるみどりのカーテン活動が根付いてきています。

4 月末からは各地でみどりのカーテン講習会が開催され、講師を推進員が担う地域も多くあ

ります。また、推進員が中心となり、地域全体の苗の育成や調達、配布を行う団体もあり、夏に向けての定番活動になっています。

京都府内でいち早くみどりのカーテン活動を始めたのは八幡市です。活動の中心を担うのが、推進員も参加している八幡市環境市民ネット。八幡市立の幼稚

園等 12 園での設置支援を継続的に続け、環境出前講座も行っています。また、毎年 5 月には推進員が講師を務める一般家庭向けの栽培講習会も開催。平成 25 年度では 250 人余りの参加者がありました。講座受講者にフォローアップアンケートを行い、次年度への活動へ活かしています。

京都府温暖化防止
センター職員
西澤浩美より一言



「京都でのみどりのカーテンの広げ方は、関わる推進員の数だけある」といっても良いくらい、多様な活動があります。推進員はそれぞれの特技を活かし、苗を育てて配る人、育て方を教えるプロ級達人、料理教室の先生、学校など公共施設設置の緑の下の力持ち、として大活躍です。そして、この活動の一番のいいところは、活動を通じて、地域の人に省エネの極意を届けるだけでなく、笑顔や会話を届けているところです。

詳しくは

八幡市 八幡市環境市民ネット <http://www.city.yawata.kyoto.jp/0000000263.html>

京都府温暖化防止センター みどりのカーテン <http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/midori/index.html>

**みどりのカーテン実施率
4軒に1軒を目指せ！**

**福知山市を「みどりの
カーテン日本一のまちに」**

2,726

軒(9.1%)がみどりのカーテンを設置。

平成 26 年度 福知山環境会議活動報告より。



小学校での「みどりのカーテン出前授業」の様子



実施率一斉調査の様子（福知山市）

みどりのカーテン - 福知山環境会議の事例 -

京都府内の各地でみどりのカーテン普及に関する動きはそれぞれ様々です。取組結果を写真コンテストで表彰する自治体もあれば、活動交流会を行うところもあります。

夏休み講座として、みどりのカーテン効果測定を体験する教室や、ゴーヤでエコクッキング教室を開催するところも。

中でも注目したいのは福知山市での取り組みです。

福知山市は「みどりのカーテン実施率日本一」をスローガンに掲げています。活動の中心となっているのが、推進員も参加している福知山環境会議です。具体的な数値目標（公共施設実施率 90%、平成 27 年度までに一般家庭実施率 25%）を掲げて、

栽培講習会の開催・実施率調査等、年間を通して戦略的に活動をしています。福知山市みどりの親善大使のご当地キャラで、特別推進員でもある「ゴーヤ先生」も、みどりのカーテン普及のため大活躍しています。

特別推進員
ゴーヤ先生



推進員 土田真奈見さん
より一言



普及活動の中で「楽しみながら育てよう」ということを大切にしてきました。緑のカーテンの内側からの眺めの美しさや涼しさを体感した方はきっと虜になるはず！今年の夏も小さな子どもたちからお年寄りの方まで楽しみながらゴーヤ先生が教える「失敗しない緑のカーテン」のコツをぜひより多くの方に知っていただきたいです。

詳しくは

福知山環境会議ホームページ <http://www.fukuchiyama-kankyokaigi.jp/>

京都府温暖化防止センター みどりのカーテン交流ブログ <http://green-mapnikki.seesaa.net/>

推進員は他にも色々な分野で活躍しています！

平成26年度 推進員を対象としたアンケート調査より抜粋【調査期間：2014年8月～9月末 有効回答数：120】

食べる
作る活動

26人

農業・畜産業・漁業を行っている推進員

74人

家庭菜園や小規模の農場を行っている推進員

食の地産地消

14人

地元の食材を使った料理教室を行っている推進員

22人

フード・マイレージゲーム等の環境教育プログラムを実施している推進員

17人

食の地産地消に関わる展示等の啓発活動をしている推進員

廃食油
回収

47人

個人や地域で廃食油回収活動に関わっている推進員

地域で再
エネ推進

22人

地域の小学校や公民館等へ、再エネ導入の働きかけをしている/したことがある推進員

73人

再エネに関する環境教育等を行っている/行ったことのある推進員

森林
保全

37人

森林や里山をフィールドに活動をしている推進員

地域
利
用材

17人

京都府産木材を自宅で使用したことがある推進員

10人

知り合いに京都府産木材の使用を勧めたことがある推進員
(うち8人は実際に使用された)

事業所
で
省エネ

33人

企業等事業所での省エネや光熱費削減に関する活動をしている/したことがある推進員

他にもたくさんの活動があります！

推進員が利用できるコンテンツ

推進員になると、活動をサポートする色々なコンテンツを利用することができます。温暖化に関する最新情報や他地域での活動のノウハウ等を知ることができます。

研修会

年数回、開催されます。
交通費支給。

温暖化の最新情報や、省エネのコツ、他地域の活動事例などを紹介します。



環境学習教材・機器の貸し出し

イベントや出前授業で使える啓発グッズや環境学習教材グッズを無料貸出しています（約 50 種類）。

省エネ相談所を開催する時などに必要なパソコンやプリンターを借りることも可能です（要相談）。

人気 NO.1

[手回し発電体験]



人気 NO.2

[掛け軸展示]



人気 NO.3

[自転車発電体験]



NEW!!

[フードマイレージ教材]



ちょっとした活動費の支援

ボランティア保険に加入

情報提供・情報発信

機関誌「うおーみんぐ」、各種パンフレットや冊子、他団体や行政の情報を得ることができます。

定期的に郵送物にて資料を送付。推進員メーリングリストもあり、推進員からの情報発信も可能です。



相談

温暖化防止活動に関して、様々な相談をすることができます。

一緒に魅力的な活動をつくり、すてきな低炭素型の地域をつくっていきましょう！

※内容は平成 26 年度のものです

第6期推進員による「私の地球温暖化防止活動」



教

員として、園部高校で働いています。温暖化の問題を教材に理科の授業で取り上げてきましたが、さらに仕事以外でも何か温暖化防止に寄与できないかと考え推進員になりました。地域の推進員さんと一緒に、小学校で温暖化防止授業をしたり、環境イベントで温暖化防止ブースを出展したりしています。また、「うちエコ診断士」として家庭の省エネアドバイスも始めました。

宇治市
田中良興さん

「京

エコロジーセンター」でボランティアを始めたのがきっかけで、市民が協力して保育園などに太陽光発電設備を設置する市民共同発電所（おひさま発電所）のを知り、これを行うNPO「きょうとグリーンファンド」で活動をしています。省エネ相談所にも参加して、イベント会場などで省エネアドバイスをしています。子どもたちの未来のために、頑張っています！

京都市
深川佳子さん



商

店街の理事長を務めています。街灯の電気代・維持管理費が高く「このままでは商店街を維持できない！」と、市役所や地域の学校と連携して、街路灯への手作りLED照明の設置に取り組みました。電力消費量は1/10に激減。これが地球温暖化防止にもなると知り、推進員になりました。取り組みは、小学校の教科書にも取り上げられる予定です。商店街で省エネ勉強会を実施するなどの活動を続けています。

長岡京市
中小路貴司さん



母

親として自分が育てる2人の子どもにどんな環境を残してあげられるだろう。何かしたいと、NPO「エコネット丹後」での活動に参加し、その縁で推進員にも委嘱されました。使用済みてんぷら油回収、竹の肥料化などの活動を行っています。最近始めたのは、木を切って集めると地域通貨がもらえるという「木の駅プロジェクト」の事務局。地域のいろいろな人に出会う機会があるので楽しいです。

京丹後市
味田佳子さん



農

家を営んでいます。できる限り地域の土壌や水質を汚さないようにと、地域で出たおから・魚のアラを利用した肥料を利用する、できるだけ泥水を流さない代掻きをするなど、環境にやさしい農業に取り組んできました。その一環で、トラクターやコンバイン等にバイオディーゼル燃料（使用済みてんぷら油を精製した燃料）を利用するようになりました。推進員として、周りの方にも、その意義を伝えています。

与謝野町
小谷安博さん



推 進 員 の 方 へ



山田啓二様より

京都府知事

地球温暖化対策は、単に温室効果ガスの排出を削減するだけの取組ではありません。限りある資源を大量に消費しながら物質的な豊かさを追い求める社会から、地域の自然や文化を基軸として生活の質や心の豊かさを大切にする社会への転換を目指していくための取組でもあります。

京都府地球温暖化防止活動推進員のみなさまには、自治会・学校・地域・商店街・農林漁業・製造業の現場など、多種多様な場面でご活躍いただいております。活動内容も、家庭や企業への省エネアドバイス、再生可能エネルギーの普及、子どもへの環境教育、低炭素型地域形成に

向けた農林漁業分野のシステム構築など、様々な分野に広がっております。これからも推進員のみなさまには、京都府が低炭素型地域を目指していく上で、その担い手としてますます重要な役割を担っていただくことを期待しています。

京都府としても、京都議定書誕生の地として、京都府地球温暖化対策条例、京都府地球温暖化対策推進計画、京都エコ・エネルギー戦略等に基づき、地球温暖化対策・低炭素型地域づくりに更に全力をあげて取り組んでまいります。

推進員のみなさん！一緒に頑張りましょう！！



長谷川公一様より

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットワーク理事長、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長、東北大学大学院文学研究科教授

海、地の魚、里山、森、食と農。京都府にはこんなにも豊かな地域資源があったんだ、と圧倒されました。千年の都を支えてきた秘密は、こうした地域資源の豊かさだったのだ、と得心。「木の駅プロジェクト」をはじめ、全国にひろげたい、多彩で魅力的な、もりだくさんの取り組みの数々。地元の保育園、小学校、商店街、中小の事業所などとのコラボ。んーそうか。こうしたコラボを支え、可能にしてきた最大の地域資源は、情熱とアイデアで、日々奮闘してくださっている、321人の温暖化防止活動推進員の方達なんだ。人材こそ、もっとも大きな地域の財産な

んだ、と再認識しました。推進員それぞれの方に、321通りのご苦労や物語、人生のドラマがあることでしょう。

京都議定書は国際的なシンボルですが、議定書の精神を支え、日々実践している、足元の草の根の努力も世界に誇っていい京都の宝物です。京都府の温暖化防止活動は全国のモデルとなってきましたが、頁を繰るごとに、数字と、数字の背後の物語から、その秘訣をまのあたりにする思いがします。伝統と新しさが同居する京都府。千年の古都と京都府は、環境の都であり、温暖化対策の京として、これからは世界に輝き続けることでしょう。



深尾昌峰様より

龍谷大学政策学部准教授、公益財団法人京都地球創造基金理事長、きょうとNPOセンター常務理事

低炭素型社会の実現は極めて重要な全地球的な課題となっています。これからを生きる私たちにとってグローバルの観点からみても最重要課題の一つであります。

一方でこれらを実現するためには、足もとの「暮らし方」や「生き方」の変容がかなり重要になってきます。私たちひとり一人の価値観が変わり生活行動が変わらないと本質的な課題解決はあり得ません。そういった意味でも推進員の皆さんが担っておられるお仕事はまさしく、地球規模の課題の解決の最前線におられると思います。

しかし、大量生産・大量消費が「当たり

前」の時代に生きてきた私たちにとって、低炭素型社会に向けて人の価値や行動を変えていくのは、そうたやすいものではありません。がゆえに、皆さん方が取り組まれている地域に根ざした取り組みが重要なのです。今までと違うことをする人は、少し変わっていると見られることもあるかもしれませんが、でもそういう人がいないと世の中はよくなりません。「変わっている」ということは、「(世の中を) 変えることができる」ということでもあります。推進員のみなさんの努力が大きく社会を変えていくことを信じています。

数字だけではわからない！ 京都の温暖化防止活動推進員の魅力！



この冊子の内容について詳しく知りたい方は、直接当センターまでお問い合わせください。

京都府地球温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL 075-803-1128 (代表)

FAX 075-803-1130

メール center@kcfc.or.jp

URL <http://www.kcfc.or.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/kcfc>

発行

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、京都府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動しています。平成 15 年 10 月 10 日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げた NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議が、京都府知事からセンターとしての指定を受けました。京都議定書採択の地・京都での温暖化防止活動の活性化に向け、さまざまな人・組織と連携しつつ活動を進めています。

平成 26 年度現在、「低炭素型のステキな京都」を実現することをビジョンに掲げ、(1) 低炭素型の元気な産業づくり、(2) 低炭素型のステキな暮らしの提案、(3) 情報発信・サポートの 3 つのミッションのもと、京都府地球温暖化防止活動推進員と一緒にさまざまな事業を行っています。

この冊子は、環境省平成 26 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域における地球温暖化防止活動促進事業）の一環で作成しました。